

1942年、13歳の誕生日のプレゼントにアンネは日記帳をもらいました。そして1944年まで隠れ家で生活していた間、ずっと日記をつけていました。彼女の夢は、ジャーナリストか作家になることでした。

捕えられたユダヤ人たちは貨物列車に乗せられ、強制収容所に強制移送されました。アウシュヴィッツ・ビルケナウもその一つで、そこで家族はばらばらにされ、選別されてさらに違う収容所へ移送されるものもありました。多くのユダヤ人たちが強制収容所で命を落としました。

アンネ・フランク

全国巡回パネル展

この活動は ANNE FRANK Meet & Learn が推進しています。

<http://gcpej.jimdo.com/link/annefrank/>



アンネ・フランクは13歳の誕生日に日記帳をもらいました。その時点では、わずか数週間後に自分の生活に劇的な変化が訪れ、その後2年あまりにわたって自分の考えたことや感じたこと、経験したことをすべて日記に記すことになろうとはつゆ知らず、またその日記が後世になって全世界の何百万という人々に読まれようとは、全く予想もしていませんでした。

(アンネの日記帳)



(アウシュヴィッツ・ビルケナウ)

ポーランドの地名「オシフィエンチム」



(アンネ・フランク)

「アンネの書いたものによって、あなたが今後の人生を通じて、できる範囲内でいいですから、平和と和合のために努力して下さいと祈ります。」

ーオットー・フランクー

※ パネル展申込・質問等は下記へご連絡ください。

<http://gcpej.jimdo.com/link/annefrank/info-apply/>

E-mail: office@jearn.jp TEL/FAX 072-680-2115

(JEARN 高槻事務所)

このパネル展は、オランダのアンネ・フランクハウスの協力により、日本の教育に関わる方たちが趣旨に賛同し、世界の平和と、平等の推進のために巡回を行っているものです。



協賛：

・ ANNE FRANK HOUSE AMSTERDAM

www.annefrank.org/en/

・ NPO 法人 グローバル プロジェクト推進機構 (JEARN) www.jearn.jp/japan/index.html

・ 平和教育地球キャンペーン

<http://gcpej.jimdo.com/>

・ e-stage.com

<http://e-stage.jimdo.com/>

ーオランダから届いた 34 枚のパネルの真実ー



1933 年以降、世界的不況の中でファシズムが台頭し、ドイツではヒトラーが政権にぎり、ユダヤ人に対する弾圧政策を行いました。

アンネ・フランクはその中で命を失った数百万の犠牲者の中の一人です。このパネル展では、34 枚のパネルに当時の世界の情勢と共に、アンネ・フランク一家や周りの人々が迎えた運命の真実を伝えています。現代の人々が平和でよりよい社会を創りだせるようにと願い巡回しています。



アンネ・フランクは 1929 年 6 月 12 日にドイツの裕福な家庭で生まれました。しかしドイツでのユダヤ人狩りが始まり、一家は難を逃れるためオランダのアムステルダムへ移住しました。しかしその後ドイツはポーランド、オランダ、ベルギーにも進駐。アンネの姉、マルゴーにもナチスからの呼び出し状が届き、一家は密かに隠れ家へ移り住みます。アンネの父、オットー・フランクは一人でも多くのユダヤ人を救うため、隠れ家にヘルマン一家 3 人と、フリッツ・フェファーを受け入れ、共同生活が始まりました。



アンネ達が暮らした隠れ家は二重構造で外からはわからないようになっていました。隠れ家に通じるドアは本棚で隠されていました。彼らの生活をミーブ・ヒースら 4 人が支えていました。アンネは日記帳に隠れ家での生活をこう綴っています。

「絶対に外に出られないってこと、これがどれだけ息苦しいものか、とても言葉には言い表せません。でも反面、見つかって銃殺されるというのもやはりとても恐ろしい。」



ユダヤ人が胸につけさせられた『ダビデの星』

しかし、彼らの隠れ家も他者の密告のために発覚し、1944 年 8 月 4 日、隠れ家の 8 人は連行されました。アンネ達はヴェステルボルグの収容所から、アウシュビッツ強制収容所へ、荷物用の貨車で移送されました。強制収容所ではナチスによる大量虐殺と、過酷な労働、飢えや寒さ、伝染病などで多くの人々が命を落としました。



さらにアンネとマルゴーは、母のエディートとも引き離され、ベルゲン・ベルゼンの強制収容所へ移送されました。



二人は疫病のチフスにかかり、姉のマーゴットは 1945 年 3 月に、アンネはその数日後に命を落としました。その収容所が

解放されるわずか数週間前のことでした。隠れ家に住んでいた他の人たちも皆収容所で命を落としましたが、オットー氏だけは病院にいた所をソ連の解放軍に助けられ、1945 年 6 月アムステルダムに帰還しました。収容所で一家がばらばらにされてから、はじめて皆の消息を知り愕然とするオットー氏に、アンネの日記帳が手渡されました。隠れ家発覚後、家財道具は没収されましたが、唯一アンネの日記だけは奇跡的に残され、ミーブらが大切に保存していたのでした。彼はその日記により、アンネがジャーナリストか作家になりたかったという夢と、彼女の隠れ家での生活を経った日記を終戦後に公開したかった意思をくみ取り日記を刊行することに生涯を捧げました。

こうして「アンネの日記」は世界中に広まり、人々に戦争の恐ろしさとおろかさ、そして民族・人種差別問題などを考えさせる重要なてだてとなったのです。

「私の望みは周りのみんなに役立ち、喜びを与えること。死んでからもなお生き続けること。いつの日かジャーナリストか作家になれるのでしょうか。ぜひそうになりたい。なぜなら書くことによって新たにすべてを把握しなおすことができるからです。私の理念、私の理想、私の夢ことごとくを。」(アンネの日記より)

※パネル展申込は下記よりご連絡ください。

<http://gcpej.jimdo.com/link/annefrank/info-apply/>

E-mail: office@jearn.jp TEL/FAX072-680-2115